



シンデレラ・ディジーズの NTD

中谷 比呂樹 WHO 事務局長補

顧みられない熱帯病 (NTD: neglected tropical disease) の 1 つであるハンセン病を、いよいよ世界の公衆衛生問題から消し去るための WHO 会議が去る 7 月にバンコクで開催された。「声なき人々」の「顧みられなかった」病気群が、なぜ一躍シンデレラのように脚光を浴びるようになったのか、その経緯と対策の醍醐味を語ってみたい。

まず、その前に読者の方々には聞きなれない NTD について簡単に説明しておこう。NTD はアフリカ・中南米・アジアの熱帯地域に患者が集中している 17 の特定の熱帯病の総称で、年間の死者は 50 万人程度と考えられている。年間 400 万人にも達するエイズ・結核・マラリアなどの三大感染症による死者から比べると 1 つひとつの病気の死者こそ少ないものの、後遺症を残すことも多く、それが偏見・差別の引き金になるなど保健問題のみならず社会的正義の問題も惹起する疾患群なのである。

これらに最初に光を当てたのは、故橋本龍太郎総理で、1997、1998 年のサミットで重要性を力説され NTD 対策の基盤を作られた。そして、多少の手前味噌をお許し願いたい、WHO は一連の病気をまとめることで疾患ポリウムとしての存在感を高めて国際世論に訴え、複数の NTD 疾患に効果のある薬剤同時投与法の開発や媒介動物対策により疾病対策の相乗効果と重複回避によるコスト低減をし

た公衆衛生手法を開発したのである。その結果、2020 年までにメジナ虫症とヨーズは撲滅、ハンセン病、フィリア症、アフリカ眠り病、トラコーマ症は制圧するというロードマップが作成され、WHO 総会決議によって各国はその実現に努力することとなったのである。そして、このような成果に手が届く状況がエビデンスとして示されるやいなや、多くのセクターから支援が届くようになり、今や製薬企業からの医薬品の寄贈により年間 7 億人の治療が可能となった。さらに米英の援助機関からは財政的な支援、ビルゲイツ氏は自ら研究費を配分するなど、「顧みられない」子どもがシンデレラとなったのである。

この経験から学ぶことは、問題を見つけ、エビデンスを示すことによって、小さな手助けをすれば疾病の撲滅や制圧に結びつく、という具体的な効果が期待できるというパッケージングをすることの重要性であり、これらの一連のプロセスは多くの公衆衛生問題へのアプローチに普遍的に使えるのではないと思う。また、前述のビルゲイツ氏、カーター元米国大統領 (メジナ虫症の撲滅)、二代に渡る笹川良一・陽平氏 (ハンセン病の制圧) など、途上国のへき地まで自ら足を運び、地域指導者や医療関係者を激励する姿も見るたびに、世の中捨てたものではないと思うのである。

お知らせ

日本精神衛生学会第 29 回大会のご案内

会期: 2013 年 9 月 21 日 (土) ~ 22 日 (日)

会場: 宮城大学大和キャンパス

(〒981-3298 宮城県黒川郡大和町学苑 1 番地 1)

大会長: 伊藤ひろ子先生 (宮城大学教授)

メインテーマ: 「こころのケアの“核 (コア)” の共有をめざして」

演題募集期間: メ切りました。

例年に比べて 2 か月ほど早い時期の開催となりますので

ご注意ください。

大会への事前参加申し込み、演題申し込み、懇親会参加申し込み等の詳細につきましては、5 月中に大会事務局から送付されたご案内を参照くださるようお願いいたします。

また日本精神衛生学会第 29 回大会ホームページ (<http://www.jamh29.com/index.html>) においてもご案内しております。